

令和2年7月20日（月曜日）

3か年対策後「新しい計画」を

自民党の足立敏之参院議員は、2020年7月豪雨で甚大な被害を受けた熊本県人吉市や岐阜県下呂市などを視察した。河川氾濫や土砂災害の現場を訪れた足立氏は、早期の復旧・復興とともに事前の防災対策の重要性を改めて指摘。最終年度を迎えた防災・減災、国土強靱化

のための3か年緊急対策後の「新しい計画」の策定や、復旧や防災に向けた補正予算の編成が必要との考えを示した。足立氏は▽11日＝熊本県日吉市、球磨村▽12日＝熊本県津奈木町、芦北町、八代市▽15日＝岐阜県下呂市▽16日＝岐阜県高山市―を視察した。人吉盆地は



熊本県人吉市では5以上の浸水被害が発生



岐阜県下呂市と高山市を結ぶ国道41号が流出

足立参院議員、20年7月豪雨被災地視察

球磨川本川と支流の川辺川の合流点にあり、水がたまりやすい。人吉市の惨状を目の当たりにした足立氏は「特に中心街の被災は著しい。5以上の浸水により建物や2階まで被害を受けていた。屋根まで逃げなければ逃げ切れない」と述べた。球磨川は下流が狭窄（きょうさく）部となっており、歴史的に浸水被害が頻発している。人吉市の下流に位置する球磨村では、球磨川沿川の県管理の国道219号や県道、鉄道、家屋などが5以上も浸水。村役場も浸水したため屋根付きの運動公園に機能を移し、村や県の職員、国土交通省のテックフォース（緊急災害対策派遣隊）などが緊急対応に追われていた。

足立氏は国交省時代、川辺川ダムを前提に河川整備基本方針の策定などに携わってきた経験を持つ。民主党政権時にダム本体工事が中止となったが、ダムサイトでは仮排水路トンネルや骨材製造設備の基礎が整備されており、家屋は99%が移転済みで、付け替え道路も90%完成している。今回、球磨川沿川の被災現場を回った足立氏は「いまま一度、原点に戻ってダムも含め球磨川の治水対策を改めて検討する必要がある」との見解を示した。

岐阜県では下呂～高山間の国道41号が約300以上にわたって、飛騨川による洗掘で流出した。中部地方整備局長を務めていた足立氏は「地域を結ぶ重要な道路だ。早期の復旧、開通に向け頑張ってもらいたい」と述べた。足立氏は被災自治体の首長からインフラの早期復旧とともに、3か年緊急対策の継続実施について要望を受けた。事前の防災対策の必要性を訴え続けている足立氏は「3か年緊急対策後の新しい計画を作り、予防に予算を付けて被害を抑えることが大事だ」と語った。

川辺川ダム含め 球磨川治水対策、改めて検討